

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[6]α-シアノ-3-フェノキシベンジル=2-(4-クロロフェニル)-3-メチルブチレート (別名：フェンバレレート)</p> <p>[7](S)-α-シアノ-3-フェノキシベンジル=(S)-2-(4-クロロフェニル)-3-メチルブチレート (別名：エスフェンバレレート)</p>	<p style="text-align: center;">【水質】</p> <p>水質試料 1,000mL アスコルビン酸 1g^{注2}</p> <p>振とう抽出^{注2} 塩化ナトリウム 50g ヘキサン 100mL(1回目)、50mL(2回目)</p> <p>脱水 無水硫酸ナトリウム</p> <p>サロゲート溶液添加 エスフェンバレレート-d₇ 1μg/mL 20μL^{注1}</p> <p>濃縮 ロータリーエバポレータ 1mLまで^{注2}</p> <p>カラム クリーンアップ フロリスィル 1g 洗浄：3%エーテル/ヘキサン 10mL 溶出：10%エーテル/ヘキサン 10mL</p> <p>濃縮 窒素バーン 1mLまで</p> <p>定容 ヘキサン 1mL</p> <p>内標準添加 ベンゾピレン-D₁₂ 1μg/mL 20μL^{注2}</p> <p>GC/MS-SIM^{注2}</p> <p><注>次に示す方法を採用した例もあった。 1:サロゲート溶液の濃度を0.4μg/mL、添加量を5μLとし、分析試料の濃縮を0.1mLまで行い、内標準物質の濃度を1μg/mL、添加量を2μLとした([6])。また、測定機器としてGCMS-QP2010([6][7])を使用した。 2:水質試料への塩化ナトリウム添加量を20gとし、振とう抽出において塩化ナトリウム50gの添加は行わず、ヘキサンの量を100mL×2回とし、ロータリーエバポレータによる濃縮を10mLまで行った。内標準物質としてベンゾ(e)ピレン-d₁₂を使用した。また、測定機器としてGCMS-QP2010を使用し、GC/MS-SIM-EIで測定した。</p> <p style="text-align: right;">「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠</p>	<p><分析原理> GC/MS-SIM^{注2}</p> <p><検出下限値> 【水質】(ng/L) [6] ※2.6 [7] 2.3</p> <p>※は同族体ごとの検出下限値の合計とした</p> <p><分析条件> 機器^{注1 注2} GC：Agilent 6890 MS：Automass Sun カラム DB-5MS 30m×0.25mm、0.25μm</p>